

## わたしのすきな絵本

### 「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(4月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

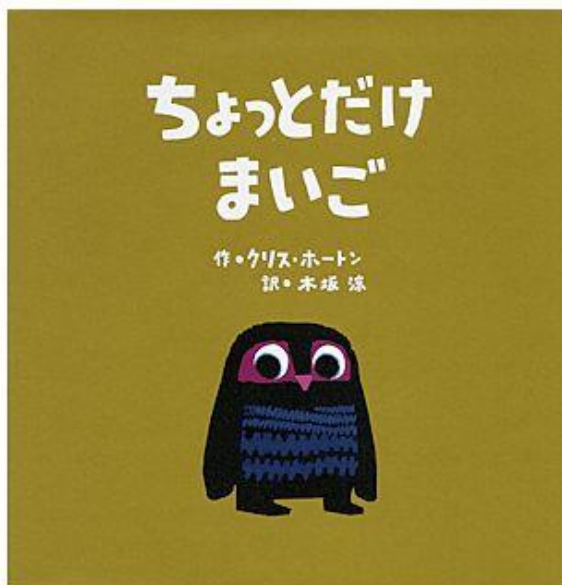
矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



## 『ちよっただけ まいご』

クリス・ホートン 作/木坂 涼 訳/BL出版

対象：幼児(5歳くらい)から高齢者



内容のご紹介

子どもたちの成長期に絵本を読むことは、大切なことです。将来の人間性や社会への適応能力を創っていきます。

日本の文化は、古来から読書の国です。識字率も世界ではトップです。

今月ご紹介する絵本は、子どもも、大人も、共感する微笑ましい友情のお話です。

幼い時の迷子の経験は少なからずあるかと思えます。本人や親も不安で心配したことです。リスとちびフクロウの会話が、愛情たっぷりで心に残る印象があります。

ラストシーンで、カエルの友達が出てきて解決します。

子どもたちが記憶して、心に残る絵本です。

巣からおちて、まいごになったちびフクロウ。「だいじょうぶ。おいらが かあちゃんを みつけてやるから」とリス。「で? きみの かあちゃんは どんなかんじ?」「ぼくの ママはね、すごーくおおきいんだ。こーんなに」ちびフクロウのジェスチャーをヒントにリスがつれていったさきは……?

紹介文/BL出版

第15期矢祭小学校子ども司書講座における6年生講座「ブックトーク(知的書評合戦)」において、浅見颯汰さん紹介の「ちよっただけまいご」が、チャンプ本(矢祭小学校6年生おすすめの本:第1位)に選ばれましたので、ご紹介いたしました。浅見さんも同じような思い出があったのでしょうか……

(矢祭もったいない図書)